

「ポイント授業観察の進め方」

～「ポイント授業観察」で授業研究の日常化を図りましょう～

日々の授業改善、教師一人一人の授業力の向上のためには、授業研究を数多く行うことが有効です。しかし、授業研究会を数多く行うとなると、授業者としては、そのための準備に負担がかかりますし、参観者としてもそのたびに自分の学級を自習にするわけにもいきません。また、授業研究会の後の事後研究会の時間を確保するのも難しいのが現状です。

そこで、授業者と参観者の負担を軽減し、日常的に取り組むことができる授業研究の工夫として「ポイント授業観察」を提案します。



「ポイント授業観察」とは、1単位時間の中で、「導入の課題把握の段階を見てほしい」「展開部分の教師の発問と児童の反応を見てほしい」など、ポイントを絞って行う授業研究です。「ポイント授業観察」は、右のような指導略案を用いて、下の3つを原則として行います。

「ポイント授業観察」における指導略案の活用

<p><単元名・本時の目標></p> <p>単元名 比べ方を考えよう 本時の目標 面積、人数が異なる場合の組みあわせの比べ方を理解する。 (2/総時数18)</p> <p><本時の展開・授業改善の方策></p> <p>1 本時の課題をつかむ。 このパンゴローがこんでいるか調べよう。</p> <p>2 解決の見通しをもつ。 3 次の解決をする。</p> <p><ポイント観察 18分～11分前></p> <p>観察ポイント</p> <p>○ 組みあわせを増やした際、上げの場の正一人の考えを、みんなに広げさせるための発問 - 面積のよきまを考えたときからよりよい考えを見つけてみるための発問の正</p> <p>4 結果とその理由について話し合う。 ① それぞれの考えを発表しよう。 ○ 1人が自分の考えを発表したとき ○ 1人あつた人数で考えたとき ○ 面積が異なる場合 ② 結果、面積、人数、面積の割合が、考えのよさを表している。 ③ 結果をまとめる方法を理解する。</p> <p>5 組みあわせの比べ方を整理する。 6 疑問点を解決する。 7 本時のまとめをする。</p>	<p><反省・考察> ※付せんとの添付</p> <p>よかった点</p> <p>よかった点</p> <p>よかった点</p> <p>疑問点 改善点</p> <p>疑問点 改善点</p>	<p>1 指導略案の作成(授業者)</p> <p>○単元名及び本時の目標 ○本時の展開・授業改善の方策</p> <p>↓</p> <p>参観者へ</p> <p>2 「ポイント授業観察」(参観自由)</p> <p>○授業改善の方策に沿った観察 ○付箋紙を活用したコメント</p> <p>↓</p> <p>授業者へ</p> <p>3 授業改善の視点に対する振り返り</p>
--	--	--

- 10～15分で行う授業観察とする。
- 参観は自由だが、チームで研究を推進する場合には、できる限り参加することが好ましい。
- 付箋紙を活用して意見を交換する。事後研究会は行わない。

授業者は、指導略案に、次の3点をごく簡潔に記入し、参観者へ事前に配付します。

- 単元名及び本時の目標
- 展開略案（主な学習活動）
- 観察の視点（授業改善の視点）

参観者は、授業改善の視点に沿って授業を観察し、気づきやコメントを付箋紙に記入して授業者へ渡します。授業者は、集まった付箋紙を基に授業を振り返ります。特に事後の話合いは行いませんが、必要な場合は個別に対応するようにします。

「ポイント授業観察」の実際

ポイントを絞って授業を観察する。

指導略案に付箋紙を貼付して授業者に渡す。

「ポイント授業観察」は、日常的に授業を見せ合うことによって互いの授業改善を図るために行います。そのためにもあまり構えすぎないで気軽に行うことが大切です。

